



「ちとせ」が変われば「みらい」が変わる

# ちとせみらい通信

## 第2回定例会一般質問

6月14日に議会で一般質問を行いましたので、質問項目の一部を抜粋してご報告いたします。

### 1-(1)若年層の定住促進策について

当市では、千歳科学技術大学の公立化、北海道千歳リハビリテーション大学の設置、日本航空専門学校新千歳空港キャンパスに白老キャンパスからの国際航空ビジネス科の移転など、今後とも、市外、道外から多くの若者が千歳市に流入することが見込まれている。札幌市では、本年4月から、厚別区にある北星学園大学と協定を結び、市営住宅もみじ台団地に学生を住ませる取り組みを始めた。安価な家賃で住まいを提供することで、学生をサポートすると同時に、自治会活動に

参加をしてもらい、コミュニティーの若返りと活性化を図ることを意図しているとのこと。また、富山市では、先月から、市内にある富山大学と富山国際大学の新生生に対して、住民票を富山市に移した場合には、公共交通の利用料6,000円を助成するほか、自動車学校の教習料金を3万円補助する制度を始めたところである。いずれも、親元を離れ、ひとり暮らしをする学生にも、仕送りをする親にとっても、金銭的、また精神的に大きな支えとなるものとする。特に、学生の場合、住民票を親元に置いたままにしているケースも少なくないものと推察されるが、これらの学生が千歳市に住民票を動かせば、一気に若年人口がふえる可能性もある。さらに、住民票を置くことで、千歳市民としての自覚が醸成され、市民との交流を促進する中で、将来的な地域経済の担い手として、そのまま千歳に定住をしてくれたり、ふるさと納税の増加に寄与してくれる可能性もあり、彼らに、千歳市に住んでよかったと思われるような施策を講じることは極めて重要と考えるが、このように、まちにも学生にも両得となるような優遇施策を当市でも講じる考えはないのか。

### 4-(2) JR 新千歳空港駅及び接続路線の改修

先般、札幌市は、冬季オリンピック・パラリンピックの招致を、従前の2026年から、北海道新幹線が札幌まで延伸する予定年の2030年に繰り下げ、JOCに伝達したことが報道された。もし札幌冬季五輪が実現した場合、開催年には敷設から50年を迎えることとなり、その輸送能力も含めて、内外からの観光客を迎えるには心もとないのではないか。北海道新幹線の2017年度の営業赤字は103億円になるとの見通しで、在来線だけでも年間150億円以上の営業赤字を抱えるJR北海道の経営にさらなる重荷となっている。これが、札幌延伸の2030年度まで単純に累積されることを想定すると、新幹線だけでおよそ1,300億円に達する巨額赤字となり、たとえ新幹線が札幌まで延伸したとしても、赤字が解消される見込みも立たない。かつて、新千歳空港が供用開始となる直前の1987年には、札幌千歳空港間が、山梨県、宮崎県とともに、リニア実験線の最有力候補地となっていた経緯があるが、その際、札幌-千歳空港間が評価されたポイントは、実験線をそのまま営業路線に転換できるという点にあったと言われている。現状でも千歳線の旅客輸送量がパンク寸前であり、高速鉄道を敷設したとしても、在来線の並行維持に一定のめどが立つこと、現在進められている空港民営化によって新千歳空港の機能が強化され、12年後には、欧州、北米などへの直行便が就航している可能性などを踏まえると、新千歳空港駅から札幌駅に至る

### 1 定住人口の促進について

(1) 若年層の定住促進策

### 2 市職員の人事等について

(1) ハラスメント対策

(2) 臨時、非常勤職員等の待遇

### 3 LGBTへの対応について

(1) 正しい理解の促進

(2) LGBT関連施策

### 4 空港民営化と周辺インフラ等への影響について

(1) 民間委託事業者の選定審査

(2) JR 新千歳空港駅及び接続路線の改修

(3) アウトレットモール・レラへの影響

空港アクセス鉄道を見直し、高速鉄道を敷設する素地は十分過ぎるほどあるものとする。このように、新千歳空港の乗降客数と航空ネットワーク網が拡充されることを考慮すれば、札幌駅からあとわずか40キロメートル営業距離を延長することで、北海道新幹線のポテンシャルは格段に向上し、JR北海道の経営改善にも大きく貢献できるものと考えられるが、これまで、国やJR北海道側から、そのような構想、計画が机上に上がった経過はないのか。もし動きがないのであれば、山口市長の4期16年に及ぶ行政手腕、また長年にわたる国や道との太い人脈を生かして、空港所在市として、北海道新幹線の延伸、もしくは現在の快速エアポートにかわる高速アクセス鉄道の新設を、空港整備関連要望、あるいは、本市も加盟している北海道新幹線建設促進期成会などを通じ、周辺あるいは関係自治体を巻き込んで、国に要望することも一計ではないかと感ずるところだが、ご所見を伺いたい。

## 新千歳空港の身障者用駐車場問題



「友人が新千歳空港の駐車場に入ったところ、車いす専用、優先のスペースにずらっと高級車が鎮座している。これはどうにかならないのか！」…こんなメールが6月18日に知り合いの方から送られてきました。最初は、障がいを持っている方が高級車に乗っていても別に不思議ではないと思ったのですが、後日実際に自分で駐車場を見に行くと愕然としました。ベンツ、アウディ、レクサス…本当に高級車の見本市みたいになっていました。そのうち一台の軽ワゴン車が入ってきました。車いす優先スペースの一番端に車を止めると年配のご夫婦がおりてきました。私が行ったときには霧雨が降っていたのですが、ちょうど屋根のないスペースだったので、ご主人が荷物を下ろす間、奥様は車いすに乗って濡れたまま待っていました。ご主人は「たまたま一台分空いていて助かった！」とおっしゃっていましたが、これらの高級車の持ち主が出張で利用しているのだとしたら、日帰りでも丸々一日この場所を占拠して動かないのでしょうか。もちろん高級車だからダメで、大衆車ならいいと言っているわけではありません。しかし、この光景を見ると、経済発展と富を追い求め、モラルを忘れさせた日本人の奢った価値観が滲み出ているとしか思えません。

私は、早速A、B両駐車場を管理する千歳市観光連盟と空港環境整備協会に出向いて見解を尋ねました。いずれも問題は以前から理解しており、一般者が駐車しないようにアナウンスを流したり、定期的に職員が巡回しているのですが、どうしてもいたちごっこになってしまうとのことでした。調べたところ、関西国際空港では身障者向け駐車場の入場ゲートを分け、入口で係員が手帳などの提示を求めて確認しているそうです。新千歳空港も現在道内7空港一括民営化の準備が進められており、運営主体となるSPC(特定目的会社)の選定審査には、千歳市長や副市長も関わるとのことですので、横田副市長にも、SPC候補者との対話の機会には、この身障者駐車場の適正利用に向けた対策を強くお願いしてもらおうよう要請して参りました。



市政や議会に関するあなたの疑問やお困りごとを是非北山けいたにお聞かせください。



メール: [mail@kitayama-keita.com](mailto:mail@kitayama-keita.com)

ホームページ: <http://kitayama-keita.com>

「北山けいた」は議会議員も公僕であり、市民の御用聞きであるベテランです。議員としての取組みをホームページやブログなどで発信しています。また、私の考えに賛同して一緒に行動していただける方を広く募集しております。お問い合わせは上記のメールからお願い致します。

ちとせみらい通信は私の想いを届けるかわら版です。

